

団長の独り言

11月9日(日)「継続と一生懸命」

今週の団長の独り言は何を描こう？

描きたい事が湯水のように湧くのは50回に1回？いや？100回に1回？それくらい毎回「何を書こうかな？」と悩むのです。

自分目線で好き勝手に描いているように思われるでしょうが、全くそんな事はなく、劇団ふあんハウスの看板を背負って描くというのは、何かと神経を使うのです。

そもそも、この「団長の独り言」を描き始めたきっかけというのは、月日をさかのぼる事、約27年前。

「劇団ふあんハウス」という劇団を立ち上げた方がいいが、何でどうやって宣伝したらいいものやら？なんて時、劇団旗揚げに多大なる協力をしてくれた高校時代の親友Sが、「これからの時代、宣伝はパソコン通信やぞ！」と言って、劇団のホームページを作ってくれた。

ただ当時の私はホームページだのパソコン通信だのは、「何のこっちゃ？」だった。

そのSからは、「劇団の日記書いたら？それを毎週アップする！そしたら段々見てくれる人増える！ホームページって世界中の人が見れるねん！」と言われたので、とりあえず稽古での出来事をワープロで綴った「稽古日記」をアップした。

実はふあんハウスを立ち上げる以前から、私はワープロを使っていた。

ワープロを買ったのは、「年賀状」作りと、あとは…映画の脚本を描くため。

脚本家になりたいという気持ちは全くなかったけど、食える役者になるための「手段」になるかも！？ってことで、「ドラマ」って雑誌の「第19回創作テレビドラマ脚本懸賞」に応募すべく、「鯉のぼり」という作品を、ワープロを使って描いた。

するとその作品が、応募総数643名の中から最終選考の10名に選ばれ、専門家からの劇評が誌上に掲載された。

ちなみに私が応募した回は、最終選考に残った10名から「大賞作品」を絞り切れなかったようで、19回は大賞がいなかった。

その最終選考に残った方々の職業欄には、映像ディレクターやプロットライター等がズラリで、そんな中、私の職業欄は「トラック運転手」だった。

その当時も役者の事務所に所属していたのだが、「俳優」って書けばいいものを、大型トラックドライバーのを覚えて書いたのは、「俳優」といえるほど役者の仕事をしていたからなのかも。

その後も懲りずに応募すればよかったのに、「俺は役者だしなあ〜」って気持ちがあつたのと、そもそも、脚本をかかなきやいけない状況でもなかったんで、それっきりになっていたのが、その数年後、劇団ふあんハウスで脚本を描くようになるとは。

そこから早27年、私は今も、必要に迫られ、もがきながら脚本を描いている。

話が大きく逸れたけれど、ホームページなるものに「稽古日記」を掲載するようになったのはいいが、私の持っていたワープロは、ネット回線につなげる機能なんてなかったんで、完成した原稿をプリントアウトして、それをSが自分の持っていたパソコンに打ち込み、アップしてくれていた。しかし、アップされた方がいいが、HPを見る環境は、当時の私にはなかったんで、Sの家に行っては、見せてもらっていた。

そのSが当時私に言ったのが、「ホームページは鮮度が命や！」
「更新しないと、誰も見てくれへんようになる」という事。

「ホームページは鮮度が命」
彼の教えは、私の心の中にずっとあって、今でもほんとにそうだと思うので、「更新」を怠るメンバーがいると厳しく指摘をしているし、私自身もどんな事があるうとも、毎週絶対に団長の独り言は更新しよう！と思いつつ、27年間ずーっと継続している。

しかし、継続するというのは本当にしんどいもので、自分で言うのも何なのだが、「団長の独り言」もそうだけれども、劇団活動自体そのものも、勢いを衰えさせることなく、よくぞここまで続けてきたもんだと思う。

「継続は力」という、とてもポピュラーな言葉があるけれど、今や劇団ふあんハウスのスローガンのひとつになっている。

「団長の独り言」でも、何度となく登場している言葉じゃないかな？

ちなみに20代の頃の私の好きな言葉は、ずばり「夢」。そして「必勝努力」だった。（努力して必ず勝つ）。

「夢」って言葉は今でも好きだし、劇団ふあんハウス作品のテーマでもあるけれど、「必勝努力」という言葉は、使わなくなつたなあ〜なんだかな？勝ち負けにこだわるよりも、もっと大切な事があるって思える年齢になったのかな？

自己分析をするのは面倒なので分らないけれど、ひよっとしたら、「必勝努力」が「一生懸命」に変わったようにも思う。で！ですね！今回の「夏の夜空へ」のテーマは「一生懸命」。

毎回の稽古場は、笑いと真剣さの中、みんな「一生懸命」芝居を創っている。そんな皆さんの個性豊かな芝居をみると、前回の動きや芝居では物足りなくなり、次から次へと新しい演出に変化し、本格的な立ち稽古に入ったばかりだというのに、もうすでに前作とは違ったモノになってきている。

どんどん変わっていく皆さんの芝居をみると、本当にすごいなあ〜って思う。今回の「夏の夜空へ」も、期待していただければと思います！